

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 100人 | 社会 | 100人 | 数学 | 100人 |
| | 理科 | 100人 | 英語 | 100人 | | |

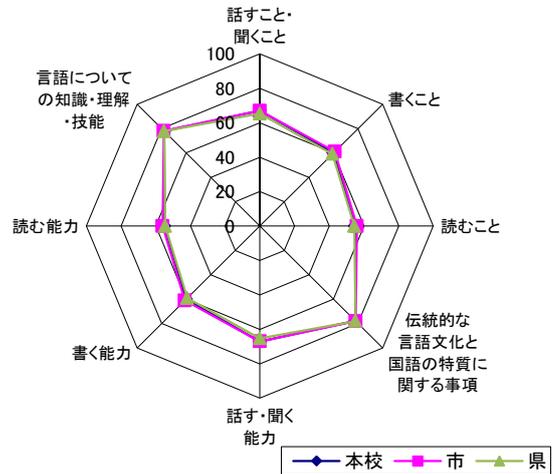
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 67.0 | 67.0 | 65.3 |
| | 書くこと | 60.1 | 61.1 | 59.2 |
| | 読むこと | 55.0 | 56.0 | 54.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 77.9 | 78.2 | 78.0 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 67.0 | 67.0 | 65.3 |
| | 書く能力 | 60.1 | 61.1 | 59.2 |
| | 読む能力 | 55.0 | 56.0 | 54.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 77.9 | 78.2 | 78.0 |



★指導の工夫と改善

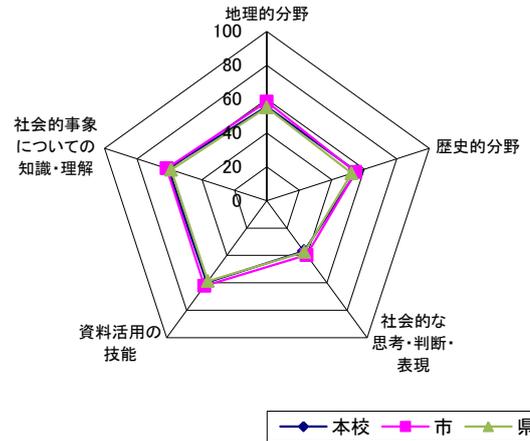
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|---|
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ○相手の意見と自分の考えとの共通点、相違点を分けて、きちんと聞くことができる。 ●話し合いの話題や方向性をつかみながら、自分の考えをもち、それをまとめるという力がついていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、メモを取りながら、話し合いの流れや発表者の意図を理解、把握し、その上で、自分の考えを整理し、まとめる活動を数多く取り入れ、その力が身につくよう、トレーニングを積んでいく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ●記述式の問題において、あきらめずに書く姿勢が見られる。 ○文章の書き方がどう工夫されているかについて、記述することができる。 ●書かれている題材の捉え方などについて、まとめることに課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要な箇所に線を引く、それから文章を要約し、書き手の言おうとしていることを捉え、さらに、そこから、自己の表現活動に生かしていけるよう、その作業を継続的に授業に取り入れていく。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ○説明文の表現の特徴、文学作品の表現の特徴を捉えることができる。 ○登場人物の人物像を場面の展開や描写のから把握することができる。 ●文章の展開に即して、内容を把握する力が不足している。 ●登場人物の心情を捉える力が足りない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取りにおいて、文章構成を捉え、どう展開しているのかを押さえつつ、内容を把握していくという流れをつくっていく。 ・文学的文章を読んでいく際、登場人物の心情を捉える上で、自己に置き換えて考えたり、感じたりしながら読み進めていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の成り立ち、比喩表現に興味をもっている。 ●漢字の読み書きにおいて、普段からこつこつ取り組んでいくことに苦手傾向が見られる。 ●文脈上の語句の意味を理解し、適切に用いることができていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでいく上で、そこに使われている語句を丁寧に拾い、意味を調べたり、用例を示したりすることを細かに取り入れる。 ・学んだ漢字・語句を普段の生活で使う機会を増やしていけるような声かけ等の取り組みを行っていく。 |
| | | |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 地理的分野 | 55.5 | 58.4 | 55.0 |
| | 歴史的分野 | 55.2 | 54.6 | 52.2 |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 37.0 | 39.8 | 37.5 |
| | 資料活用 of 技能 | 59.7 | 62.3 | 58.7 |
| | 社会的な事象についての知識・理解 | 61.2 | 61.7 | 59.0 |



★指導の工夫と改善

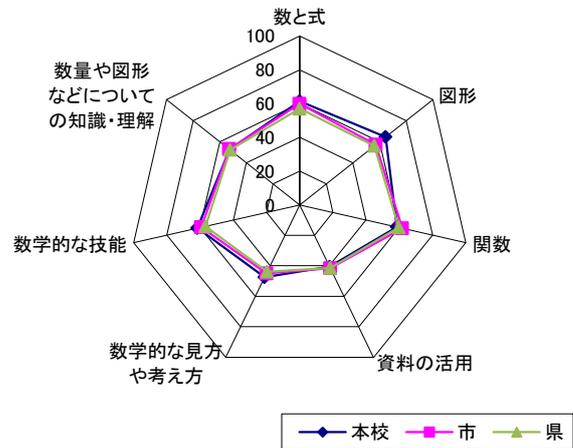
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 地理的分野 | <p>○グラフからアフリカ州の国々の特徴を読みとり、記述する問題の正答率が県平均を7.6ポイント上回っている。</p> <p>○また、そのグラフと別のグラフからアフリカ州の課題を見つけ記述する応用問題の正答率も4ポイント高くなっている。</p> <p>○正距方位図法を使って正しく方位を読み取る問題で正答率が9.4ポイント高い。</p> <p>●北アメリカに位置する山脈の名称を答える問題の正答率が6.1ポイント低くなっている。</p> <p>●示された条件にあてはまる国を推測し、地図から選択する問題で、正答率が11.2ポイント低い。</p> | <p>・今後とも、グループでの話し合い活動を取り入れながら、グラフの読みとりの学習を行っていくことで、思考力や判断力、表現力の育成を図っていくようにする。</p> <p>・基礎的事項については、家庭学習の仕方を指導し、小テストなどで定着を図る。</p> <p>・地理的事象に関心を持たせる工夫をしながら、学習に取り組ませる。</p> |
| 歴史的分野 | <p>○ほとんどの問題で県の平均正答率を上回っている。インダス文明がおこった地域を地図から選ぶ問題で、11.7ポイント、年代の表し方を答える問題で、12.1ポイント県平均を上回るなど、1年の当初に学習したことも定着している。</p> <p>●邪馬台国の女王の名を答える問題では、平均を7.5ポイント下回っている。正しく漢字で表記できない。</p> | <p>・語句を使う機会を増やすようなワークシートや板書の工夫を行ない、表現力を培いながら、弱点を克服できるようにする。</p> <p>・語句を正しく書けるようにするために、家庭学習の仕方を指導し、定着を図る。</p> |
| | | |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 61.4 | 59.8 | 57.0 |
| | 図形 | 64.5 | 57.1 | 56.1 |
| | 関数 | 58.5 | 61.8 | 59.8 |
| | 資料の活用 | 40.6 | 41.6 | 41.4 |
| 観点 | 数学的な見方や考え方 | 47.4 | 44.9 | 43.9 |
| | 数学的な技能 | 61.7 | 59.4 | 56.8 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 52.8 | 53.0 | 52.3 |



★指導の工夫と改善

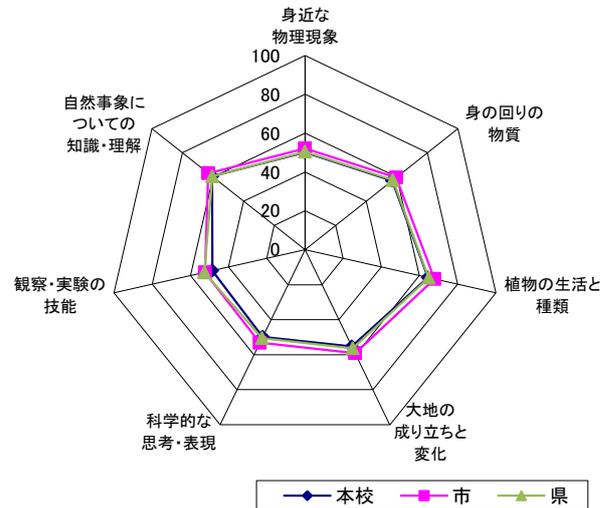
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 数と式 | <p>この領域は県や市の平均正答率に対して、高い。</p> <p>○文字式では、文字式で同類項をまとめることや、文字式と数の乗法の計算をすること、数学的に表現された結果から、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することができる。</p> <p>●1次方程式では、小数を含む1次方程式を解くこと、文章から1次方程式・不等式を立式することに課題が見られる。</p> | <p>・今後、授業の中でつまづきそうな計算が出てきた場合は、適時計算の仕方に応じて説明するなどして確認していく。また、日常生活の中にある数学的事象を取り上げて、問題を与えて、思考力を高めていく時間を確保するようにする。</p> <p>・文章から立式する問題を、小テスト等でも取り入れて、またヒントなどを与えながら、問題演習を行わせていく。</p> |
| 図形 | <p>この領域は県や市の平均正答率に対して、高い。</p> <p>○円柱や正四角錐の体積について、正しい関係を選択することが県平均正答率に対して、9ポイント高い。</p> <p>○点と直線の距離を作図をすることに対して、県平均正答率よりも10ポイント高い。</p> | <p>・作図用具をきちんと準備させた状況で、いろいろな作図をさせながら、正しい作図方法を身に付けていく。また、問題を解決する上で、必要に応じて展開図をかかせ、側面積などを計算式で求めることができるヒントとしていきたい。</p> |
| 関数 | <p>県平均正答率と比べてやや低い。</p> <p>○比例のグラフを利用して、目的地に着くまでの時間を求める問題では、県平均生徒率よりも8ポイント高い。</p> <p>●反比例の関係を表す文章を選択する問題では、県平均正答率よりも12ポイントも低い。</p> | <p>・「速さ、道のり、時間」の関係でつまづいている場合は、その関係を随時確認しながら、グラフを利用すると容易に解決する機会があることに気付かせたい。また、事象をグラフで表す練習も行っていく。</p> |
| 資料の活用 | <p>この領域は、県平均正答率よりもやや低い。</p> <p>○度数分布表から度数を求めたり、あてはまる階級を求めることなどの問題の正答率は高い。</p> <p>●条件を満たす階級の階級値を求めたり、相対度数を求めたりする問題では、他の問題と比べて、正答率が低い。</p> | <p>・時には言語活動を通して、数学的に表現された事象を、一つの解答方法にこだわらず、いろいろな資料の読みとり方があることを理解させ、様々な考え方・判断があることを学ばせていく問題演習を行っていく必要がある。</p> |
| | | |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 身近な物理現象 | 50.1 | 52.1 | 50.5 |
| | 身の回りの物質 | 57.0 | 59.6 | 57.4 |
| | 植物の生活と種類 | 64.5 | 67.8 | 64.9 |
| | 大地の成り立ちと変化 | 55.3 | 59.1 | 56.3 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 49.8 | 53.1 | 50.6 |
| | 観察・実験の技能 | 48.5 | 52.4 | 52.7 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 60.6 | 63.1 | 60.5 |



★指導の工夫と改善

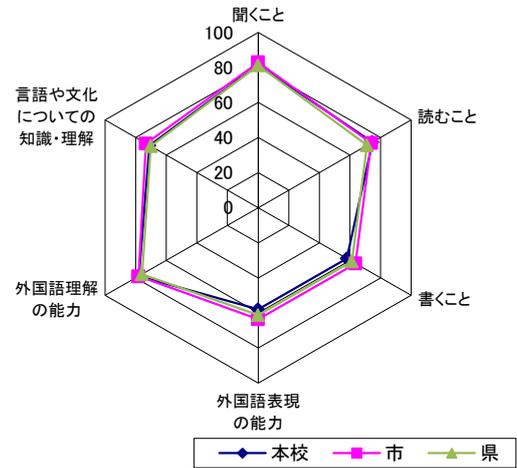
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------------|---|--|
| 身近な物理現象 | ○鏡で反射した光の道すじを推測する問題や、物体にはたらく大気圧の向きを答える問題では、県の平均正答率を1ポイントほど上回っている。 ●光が水中へ進むときの入射角と反射角を答える問題では、県の平均正答率を4ポイントほど下回っている。 | ・基礎的・基本的な知識の定着を図るため、授業内で小テストを実施し、学習内容の復習の機会をつくる。 |
| 身の回りの物質 | ○水の量を半分にしたときの温度変化のようすを推測する問題では、県の平均正答率を13ポイントほど上回っている。 ●密度の大きさからものの浮き沈みを考える問題や、ガスバーナーを正しく操作する手順を答える問題では、県の平均正答率を9ポイントほど下回っている。 | ・ガスバーナーの操作手順など、実験に使う器具の使い方について繰り返し指導し、正しい使い方と扱えるようにする。 |
| 植物の生活と種類 | ○実験結果から、光合成によってできる物質を答える問題では、正答率77%と、県の平均正答率を8ポイントほど下回っている。 ●対照実験の結果から、植物のはたらきを考察する問題では、県の平均正答率を16ポイントほど下回っている。 | ・実験の考察など、科学的な思考・表現が求められる部分でのつまずきが見られるので、予想→実験→結果→考察の一連の流れで思考のプロセスを意識した実験・観察を行っていく。 |
| 大地の成り立ちと変化 | ○地層の堆積環境を推定する化石の名称を答える問題では、県の平均正答率を10ポイントほど上回っている。 ●白色や無色無味部土の種類を答える問題では、県の平均正答率を17ポイントほど下回っている。 | ・柱状図などの資料からわかることを推測したり、考察したりすることが苦手なので、資料を活用し考察する場面を多く設定し、授業を行っていく。 |
| | | |

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 81.3 | 82.9 | 81.2 |
| | 読むこと | 74.7 | 73.9 | 71.2 |
| | 書くこと | 58.0 | 63.6 | 61.2 |
| 観点 | 外国語表現の能力 | 58.0 | 63.6 | 61.2 |
| | 外国語理解の能力 | 77.9 | 78.1 | 75.9 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 71.0 | 73.2 | 70.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 聞くこと | <p>○県の正答率をわずかであるが上回っている。日付や出身国についての対話文はよく理解している。</p> <p>●市を1.6ポイント下回っている。相手の質問を聞いて適切に回答する問題の正答率が市を下回る。</p> | <p>・教師の英語はもとより、ALTやリスニング教材など多くの英語を聞かせる。また、英語の会話の場を増やして、応答する問題にも適応できるようにする。</p> |
| 読むこと | <p>○県や市の正答率を上回っており、良好である。対話文や長文を読んで、その内容を理解することができる。</p> <p>●グラフを見ながら、対話文を読み取る活用の問題の正答率が低い。</p> | <p>・対話文、図やグラフなどが入る英文など多様な英文に触れさせ、必要な情報を読み取る力を養っていきたい。</p> |
| 書くこと | <p>○現在進行形や過去形の基礎の問題については、概ね良好である。</p> <p>●書くことの領域全体で県や市の正答率を下回っており、特に活用の問題において英文を書く力が不十分である。</p> | <p>・単語や基本文など、書くテストを計画的に行い、基礎・基本の定着を図る。また、テーマに基づいた英作文を定期的に授業で行い考える力を養いたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立城山中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、身に付いたことが将来の仕事や生活の中で役立つと考えたり、勉強していて「おもしろい」と感じたり、「不思議だな」「なぜだろう」と考える生徒が多い。

○学校の宿題は、自分のためになっていると考え、家庭学習では復習をしている生徒が多い。

○誰に対しても思いやりの心をもって接している生徒が多い。

○学校の決まりを守って生活していると答える生徒が100%である。

●友達の前で考えや意見を発表するのは、あまり得意でない。

●宿題は行うが予習復習、テストのふりかえりはあまりできていない。

●家庭学習をしている生徒とそうでない生徒の差が大きい。

●毎朝朝食を食べている生徒の割合が低い。